

教科 科目 単位数	芸術 書道 I 2	受信校	北海道穂別高等学校	学科 学年(年次) 履修・実施	普通科 第三学年 必修・一斉
教科書 副教材	「書道 I」(教育出版)				

1 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)より)

2 学習のポイント

- (1) 作品制作のポイントの整理や鑑賞活動などにワークシートを使用しますので、活用してください。
- (2) ほぼ毎時間、清書を提出してもらいます。自分で写真を撮影し、classroomを通して提出します。
- (3) 試験は実施しません。毎回の提出作品やワークシートへの記述、取り組みの様子などをもとに評価をします。書道 I では、作品制作のための技術を身に付ける学習だけではなく、様々な学習活動を行い、評価をします。
- (4) この科目では、実技だけではなく、根拠をもって作品を鑑賞する活動や、制作する上で自分自身が考えたことを記述するといった活動があります。考えたことや感じたことを、積極的に文章や発言で表現するように心がけてください。
- (5) 友達と作品の相互批評や、話し合いの場面も多くあります。積極的に参加してください。
- (6) 実技教科なので用具・用材は大切です。直接作品に影響が出ますので、大切に扱ってください。

3 学習の評価

(1) 評価の観点と規準

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と観点の関連(◎=特に関連の深いもの)

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア	学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組
イ	ワークシート	○	◎	◎	ワークシート等への記述
ウ	作品	◎	○	○	提出作品
総括時の比率		1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

- (1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。
- (2) 授業者が現地にはいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。
- (3) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

<学習の支援について>

- (1) 授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、クラスルームやワークシートに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画 (計60時間)

月	○題材 ●主な教材	配当 (時)	【学習領域】 ・主な学習内容 □対面授業	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4 / 5	○オリエンテーション	2	・書道 I の学習について ・書表現の多様性について知る。	高等学校における書道の学習について見通しをもつことができる。 端末の使用方法について理解することができる。	年間を通して以下の項目を主な評価の対象とする。 ①ワークシートへの記述状況、提出作品 ②ワークシートへの記述状況 ③取組の状況、ワークシートへの記述状況、提出作品
	○漢字の書の学習① 篆刻の学習 ●様々な篆刻作品	6	□対面授業① (予定) 【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆刻についての理解を深める。 ・様々な篆刻作品に親しむ。 ・自分の落款印を制作する。	篆刻の歴史や用途についての理解を深め、様々な篆刻作品の作風があることを理解できる。 自分なりの落款印を制作することができる。	
	○漢字の書の学習② 書風と結構法 ●九成宮醜泉銘 ●孔子廟堂碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・楷書の基本用筆を学ぶ。 ・様々な楷書の表現の習得。	基本的な楷書の筆使いを学ぶ。 初唐の三大家の書を学び、同じ楷書の表現にも違いがあることを理解し、表現することができる。	
	○漢字の書の学習③ 多様な筆使い ●雁塔聖教序 ●顔氏家廟碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・入筆に注意して書く。 ・筆圧のかけ方による表現の違い。	入筆には様々な表現があることを知り、留意しながら書くことができる。筆圧の違いによる表現の差異に気づいて表現できる。	
6	○漢字の書の学習④ 行書の基本用筆 ●蘭亭序	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・行書の基本用筆を学ぶ。 ・蘭亭序のよさを味わう。	蘭亭序の歴史的背景を理解することができる。行書の持つリズムや流れを意識して表現することができる。	
	○漢字の書の学習⑤ 様々な行書の筆使いと書風 ●祭姪稿 ●風信帖	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・蘭亭序とは異なる行書の表現を学ぶ。 ・それぞれの古典の書かれた背景を理解して味わう。	それぞれの古典が書かれた背景の理解を通して、線質や字形から作者の感情を感じ取ることができる。勢いのある行書の表現をすることができる。	
7	○漢字の書の学習⑥ 漢字創作 ●自選の漢字	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・漢字創作 ・画仙紙に文字を書く	これまでの古典の学習を踏まえながら、自分なりの意図に応じた書表現を工夫することができる。	
8	○漢字の書の学習⑦ 篆書の用筆と運筆 ●泰山刻石	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆書の基本的な筆使いの習得	篆書の筆使いである、蔵鋒、中鋒を習得し、篆書の特徴的な文字造形を表現できる。	
9	○漢字の書の学習⑧ 隷書の筆使いと字形 ●曹全碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・隷書の基本的な筆使いの習得	隷書に親しみ、波磔や転折などの特徴的な筆使いを表現することができる。	
	○漢字の書の学習⑨ 草書の用筆と運筆 ●書譜	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・草書の基本的な筆使いの習得	草書特有の流動美や文字造形を理解するとともに、基本的な草書の筆使いができるようになる。	

令和7年度 遠隔授業配信シラバス

10	○仮名の書① 仮名の基本的な筆使い ●いろは歌 ●連綿 ●蓬萊切	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・仮名に親しむ ・仮名の基本的な筆使いの習得	仮名の基本的な筆使いをできるようにする。文字の大小、行の流れ、墨の付け方に気をつけながら「蓬萊切」を書くことができる。
	○仮名の書② 散らし書き ●三色紙	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・色紙の表現を味わう	色紙の表現を味わい、意図について考えることができる。古典の散らし方を学び、表現することができる。
	○仮名の書③ 仮名の創作 ●自選の和歌	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・散らし書きの創作	仮名の基本的な用筆を生かして、自選の和歌を表現することができる。意図に応じた構成や表現に向けて工夫することができる。
11	○漢字仮名交じりの書の学習① ●海遠い海よ ●様々な現代の詩歌	2	【B 鑑賞】 ・漢字仮名交じりの書に触れる。 ・様々な表現を味わう。	漢字仮名交じりの書の歴史を学び、どのような書なのかを理解する。美術館に所蔵されている道内ゆかりの書作品に触れ、作者の表現の意図について分析することができる。
	○漢字仮名交じりの書の学習② 筆脈と字形 ●様々な現代の詩歌	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・楷書を応用した表現 ・行書を応用した表現	これまで学習してきた楷書や行書の用筆を生かした表現をすることができる。筆脈や字形に留意して表現の幅を広げることができる。
12 ・ 1	○漢字仮名交じりの書の学習③ カレンダー制作 ●自選の言葉	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・構成の工夫 ・作品の構想・工夫 □対面授業②（予定）	自選の言葉をどのように表現したのか考え、古典の応用・構成の工夫と行った視点を加味しながら、自分なりの表現をすることができる。
	○一年間のまとめ ●ポートフォリオに蓄積した自分の作品	2	・一年間の学習の振り返り	自分のこれまでの書道の学習を振り返り、自分自身ができるようになったことを確認する。

※年間を通して、【鑑賞】の学習領域の活動を帯単元として行う予定。

※適宜、他者の作品を批評する活動や、意見交換しながら作品の構想、工夫をする活動を行う。